



14_福岡市 | 虐待等の困難を抱える子どもの早期把握・支援

*総括管理主体：各担当部局からのデータを組み合わせて判定ロジック等を用いて人によるアセスメントの補助となる判定を行う部局
 *保有・管理主体：教育・保育・福祉・医療等のそれぞれの分野に関するデータを保有する担当部局
 *分析主体：データを分析して総括管理主体が困難な状況にあることを把握するための判定アルゴリズム等を作成する者
 *活用主体：データの提供を受け人によるアセスメントやプッシュ型（アウトリーチ型）の支援につなげる者

▼自治体の概要

自治体名	福岡市（福岡県）	位置	参加関係者の体制、役割*			
人口	1,640,803人（2023年8月時点）		総括管理主体	保有・管理主体	分析主体	活用主体
担当部局名	福岡市子ども未来局子ども健やか部子ども見守り支援課		(庁内) ・子ども見守り支援課	(庁内) ・各業務所管課	(庁内) ・子ども見守り支援課	(庁内) ・区子育て支援課 ・児童相談所

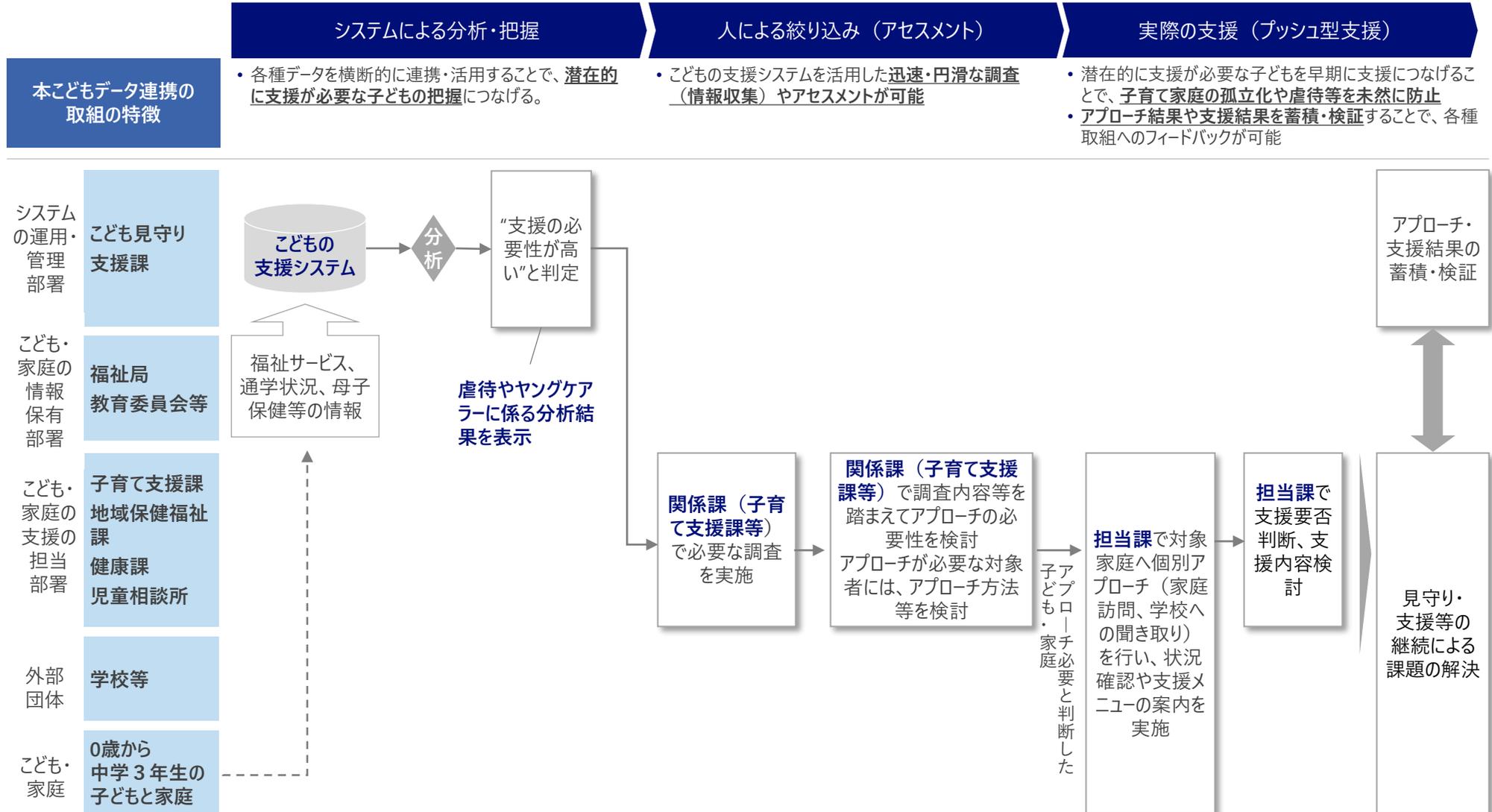
▼本事業の実施概要

背景、目的	<p>背景</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 少子高齢化、都市化、核家族化の進行などによる子育て家庭の孤立化など、子どもと子育て家庭を取り巻く状況は大きく変化している。 ・ そうした中、困難を抱える子どもやその家庭は、その実態が見えづらく、自らSOSを発信できないなど、もともと顕在化しづらいことに加え、長引くコロナ禍によって、さらにそのリスクが見えにくく、捉えづらくなっており、支援が届きづらくなっている。 <p>目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもに関する福祉や教育などの各種情報を横断的に連携し、適切に活用することで、SOSを待つことなく、困難を抱える子どもや家庭の早期把握を促し、適切な支援につなげていくための仕組みづくりを行う。
対象とする困難の類型	虐待、ヤングケアラー（検討）
本年度の取組概要	<p>本年度末時点で到達していたい姿（予定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>虐待等</u>の困難を抱える子どもの把握のためのロジックを構築し、ロジックを活用したプッシュ型支援に取り組んでいる状態。 ・ <u>ヤングケアラー</u>把握のためのロジックに関する検討（要件定義、データ項目選定等）に取り組んでいる状態。 <p>上記に向けて本年度中に実施すること</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 現場職員の経験や知見を踏まえた基準案によるプッシュ型支援の試行（試行1回目）。 ② 試行1回目も踏まえ、ロジックを活用したプッシュ型支援の試行（試行2回目）。 ③ ヤングケアラーに関する実態把握による課題の整理、要件定義、データ項目の選定、ロジックに用いる基準の検討。

14_福岡市 | 虐待等の困難を抱える子どもの早期把握・支援

▼子どもデータ連携による、支援業務プロセスの概要（2024年度以降の目指す姿）

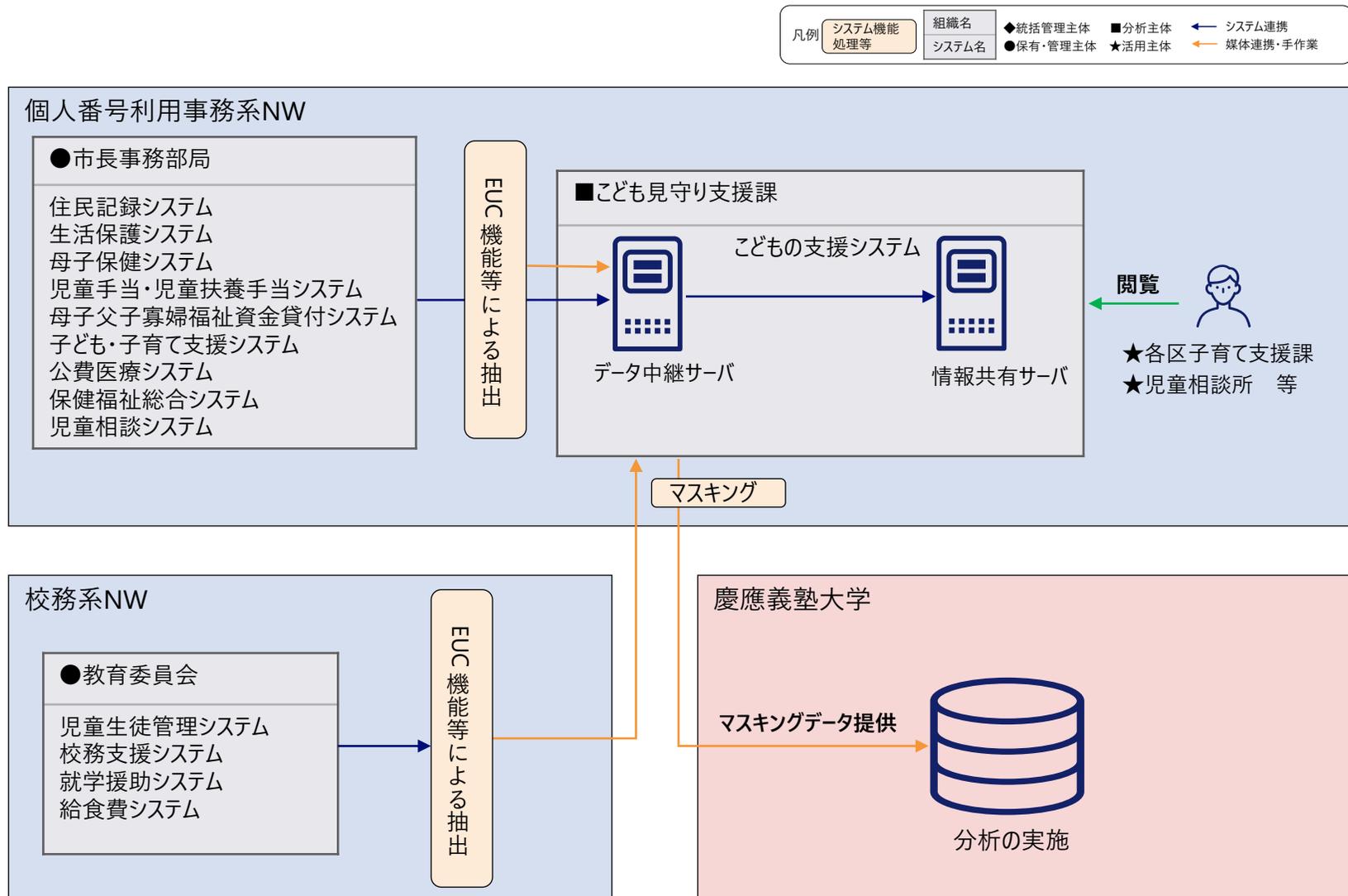
・各種データを横断的に連携することで、虐待等の困難を抱えている可能性のある子どもの把握が可能になり、潜在的に支援が必要な子どもに支援を提供できるようになる。



※上記プロセスは2023年10月時点の想定であり、今年度の実施状況を踏まえて見直し・検討を行う予定

▼データ連携方式

- 個人番号利用事務系ネットワークにシステム（こどもの支援システム）を構築。連携方式はシステム連携で、マスキングは分析研究機関へのデータ提供時に実施する想定。
- システム連携は、市の共通連携基盤を経由してデータ連携を実施する想定。個人番号利用事務系ネットワークに接続する基幹系システムのうち、一部のシステムに改修を行っており、日時でのシステム連携を開始している。



▼本年度事業の進捗、課題等

	実施方針（本年度中に実施すること）	本年度、実施してきたこと	直面した課題、及び本年度実証における対応策（案）
<p>利用するデータ項目の選定、及びデータの準備</p>	<ul style="list-style-type: none"> 試行結果や現場職員の意見を踏まえ、<u>データ項目の検討・見直しを実施</u>。 	<ul style="list-style-type: none"> （利用するデータ項目については、相談・通告等があった際に現場職員が収集している情報等をもとに、R4年度に選定済。） 	<ul style="list-style-type: none"> （課題）データ項目の見直しにあたっては、試行結果も踏まえながら検討を進める必要があるが、DBレイアウトの変更やシステム改修を伴うことから、<u>改修費用や改修期間等の確保が必要</u>であり、R6年度以降も、継続的に取り組んでいく必要がある。
<p>判定基準*の構築・精査 *支援が必要と考えられることも等をデータにより抽出するための判定ロジック</p>	<ul style="list-style-type: none"> 試行1回目：<u>現場職員の経験や知見</u>を踏まえ、支援の必要性が高いと思われる子どもや家庭等の把握に資する条件（基準案）を検討。 試行2回目：<u>試行1回目の結果も参考にロジックを構築</u>。 	<ul style="list-style-type: none"> ワーキンググループを通じて<u>基準案を作成</u>。 	<ul style="list-style-type: none"> （課題）職員によるアセスメントは定性情報を元に行われる場合も多く、<u>データ（定量情報）を活用した基準案の検討の糸口をつかむのに苦労</u>した。 （対応策）定量情報、定性情報に関わらず、<u>支援の必要性と関連があると思われる要因の洗い出し</u>を行い、それらの要因とデータを紐づけるという手順で検討を進めた。
<p>個人情報の適正な取扱いに係る整理 （法的整理、手続き等）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「実証事業ガイドライン」を踏まえた整理を行うため、<u>個人情報の取扱いに関する実施要綱・要領を策定</u>。 試行状況や国の動向を踏まえながら、適宜要綱・要領の見直しを実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 本年度実証事業内容を踏まえて、<u>要綱・要領を策定</u>。 	<ul style="list-style-type: none"> （課題）個人情報の取扱いについてはガイドラインを踏まえ各自治体で整理を行うこととされているが、<u>ガイドラインは今後も検討・見直し</u>が予定されており、<u>その状況を踏まえた対応が必要</u>。 （対応策）関係部署等とも適宜連携しながら検討・整理を行うとともに、必要に応じて有識者へのヒアリングも検討する。
<p>システム*の企画・構築 *自治体によるが、データ連携、システム判定、判定結果の表示・伝達などを行うシステム</p>	<ul style="list-style-type: none"> 個人ごとに<u>福祉サービスの受給状況等</u>を表示し、<u>支援の必要性を算出・表示</u>するシステムを構築する。現場職員が<u>支援の必要性等を判断する一助として活用</u>することを想定。 	<ul style="list-style-type: none"> （システムは前年度実証において構築済み。） 	<ul style="list-style-type: none"> （課題）現行システムのデータ連携頻度（週次または月次）では、<u>状況変化に十分な対応ができていない</u>。 （対応策）データ連携頻度の向上を目指し、<u>順次改修を実施</u>している。
<p>システムによる分析・把握</p>	<ul style="list-style-type: none"> 試行1回目は、市内の3歳から小学2年生を対象に、ワーキンググループで検討した<u>基準案により、支援が必要な可能性のある子どもを抽出</u>する。 試行2回目は、試行1回目を踏まえて別途構築する<u>ロジックにより抽出</u>を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> <u>基準案による抽出</u>を行い、試行1回目を実施中。 	<ul style="list-style-type: none"> （課題）基準案に用いた各項目（例：虫歯の治療をしていない等）について、実際に抽出作業を行う段階になって、<u>条件設定が不十分な項目や想定していた条件設定が困難な項目が判明</u>することが度々生じた。 （対応案）その都度ワーキンググループで必要な検討を行った。
<p>人による絞り込み（アセスメント）、実際の支援の実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> 職員による情報収集やアセスメントを行い、個別アプローチの必要性を検討。 個別アプローチが必要とされた子どもに対しては<u>家庭訪問等による状況確認を行ったうえで、支援の必要性や支援内容の検討</u>を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 本年度実証事業における試行1回目のための、<u>プッシュ型支援対応マニュアル（案）</u>を作成した。 <u>プッシュ型支援に関係する職員向け説明会</u>を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> （課題）<u>潜在層へのアプローチや支援について、現場職員が十分な経験やノウハウを有していない</u>。 （対応案）試行1回目にあたり、事前にワーキンググループでアプローチ方法等について検討を行い、<u>対応マニュアルとして整理</u>。

...

以降、取組効果の分析に続く